



ケノーシス

大量消費時代と気候変動危機における
祝福された生き方

サリー・マクフエイグ著／山下章子訳

自己^ケを空^ノしくする^ーという^シ生き方^ス



エコフェミニスト神学を力強く牽引してきた著者の、生前最後の書となった渾身のメッセージ。ジョン・ウルマン、シモース・ヴェイユ、ドロシー・デイら、社会の外的変革と霊性の内的深化とを結びつけた先達の生き方に学び、危機の時代の新たな倫理と死生観を探る。いま私たちに必要な神学がここから始まる。

私たちはこの世を去るときに良き客人のように神に感謝の言葉をささげられるだろう。……私たちは「もつともつと生きたい」としがみつくのではなく、このあまりに素晴らしい世界でしっかりと目を覚まして生きることができたさやかな歲月という贈り物に、感謝すべきなのだ。

それゆえ私たちの主な役割は、地上で過ごすわずかな滞在期間に蓄えた資産、才能、与えられた物、金銭、影響力などを、全体が良くなるために世界にお返しすることなのだ。

◆ A5判・398頁・本体4000円

〔目次より〕

序文 ― 宗教、エコロジー、経済学

第1章 「自分の話はもうたくさん」

― アウグスティヌスの『告白』とフェイスマックとの関係

第2章 「私たちはどこに在るのか」

― 地球で良い生き方をするこゝ

第3章 聖人たちの生涯

― ジョン・ウルマン、シモース・ヴェイユ、ドロシー・デイ

第4章 聖人たちの実践 1

― 他者の物質的必要に留意するための自発的貧困

第5章 聖人たちの実践 2

― 地域レベル・地球レベルにおける普遍的な自己の成長

第6章 「あなたの話ではなく」

― ケノーシスという生き方

第7章 ケノーシスの神学

第8章 この後どうすればよいのだろうか

― 個人として、職業人として、公共意識を持つ市民として、ケノーシスの生活を送る

日韓キリスト教関係史資料Ⅲ

1945—2010 富坂キリスト教センター編

11月25日発売

日韓の貴重な資料350点以上を収録。アジア太平洋戦争における日本の敗戦から日韓基本条約締結までの交流を第Ⅰ部、韓国民主化闘争と日韓連帯の動きを第Ⅱ部、戦後補償問題を含む日韓の交わりと統一への模索を第Ⅲ部とする。とりわけ、韓国民主化運動における日韓の資料については他の追隨を許さぬ充実した内容。今後日韓関係を論じる上で不可欠の基本資料集がついに成る。

◆A5判・1115頁・本体15000円

既刊 日韓キリスト教関係史資料Ⅱ 1923—1945 ◆A5判・849頁・本体14000円

創世記Ⅱ カルヴァン旧約聖書註解

11月25日発売

ジャン・カルヴァン著／堀江知己訳 改革者の聖書釈義の真髄

旧約註解としてはイザヤ書の次にカルヴァンが手がけた創世記。1550年頃から着手し、くり返し改訂を重ね、63年の決定版に基づく。Ⅰ（渡辺信夫訳）の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。このⅡは創世記24章以下、イサクからヨセフにいたる父祖たちの物語。なお愛書家およびⅠを上製・函入で愛蔵している読者のために、上製・函入版を限定100部制作。詳しくは専門書店に。

◆A5判・並製・398頁・本体4500円

◆A5判・上製・398頁・本体6000円



既刊 創世記Ⅰ

渡辺信夫訳（オンデマンドブック）

◆A5判・並製・408頁・本体4800円

ジャン・カルヴァン著／森川甫訳

共観福音書註解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された註解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。
A5判・予価85000円

武田武長著

ただ一つの契約の弧のもとで

ユダヤ人問題の神学的省察 イスラエルに対する神の選びはキリスト教会の誕生によって無効となったのか？ 厳密な聖書釈義と現代神学との対話を通して、救済史の根本問題に迫った力作。
四六判・予価26000円

デイヴィッド・ライアン著／大畑深・小泉空・芳賀達彦・渡辺翔平訳

ジーザス・イン・デイズニールランド

ポストモダンの宗教・消費主義・テクノロジー [仮題]

世俗化論の想定に反して、多様な宗教実践が開花しているポストモダン社会。その分析を通じて宗教の未来を探究する、監視社会論の泰斗による「キリスト教社会学」。
四六判・予価35000円

● 10月に出た本と雑誌

教義学要綱 [ハンディ版]

カール・バルト著／天野有、宮田光雄訳



戦後間もないボン大学で使徒信条を用いて行った教義学の入門講義。バルト神学の巨大な世界を凝縮して示す名著を、最新の研究に基づく新訳で贈る。
◆小B6判・本体20000円

クリスマス

カール・バルト著／宇野元訳



1928年から1962年までのおよそ半世紀間から10編を精選。激動の時代の中で、バルトが聴き取ったクリスマスのメッセージが力強く語られている。
◆小B6判・本体14000円

福音と世界

11月号 パンデミックとキリスト教

◆税込6600円

寄稿者：小原克博、越川弘英、長尾有起、松谷暉介、戒能信生／山口里子／栗田隆子、金迅野、好井裕明、土井健司、マニユエル・ヤン、松本あずさ、辻学、長谷川修一、山口政隆、内田樹

●コロナ禍で出歩きづらい日々が続いていますが、先日、写真家の神藏美子さんに久しぶりにお会いすることができました。ご一緒したのは東京・表参道の書店、青山ブックセンター。作家・早助よう子さんの新刊『恋する少年十字軍』（河出書房新社）の刊行を記念する選書フェアで、神藏さんが解説を書かれた『主は借にあり——田中遵聖説教集』と『福音と世界』が取り上げられたのです。それぞれ「田中小実昌の父、めつつちゃ面白いです!」「いまいけばんおもしろい雑誌のひとつ」という早助さんの手書きのポップが添えられ、担当編集としてはなんとも面映ゆい感じがしました。ご献本いただいた『恋する少年十字軍』もさっそく読んだのですが、ときに奇想天外な設定・展開のなかに鬼気迫るリアリティを備え、なおかつそのリアリティからふつと脱け出してしまう瞬間——田中遵聖の言葉を借りれば「受け」「奪い」——を見やりながら軌道を描く文体に、率直に「いいものを読んだ」と思わされました。

新規感染者数の増減やらワクチンの開発状況やらに汲々とさせられることも多いなか、こういった現実からの離脱ということをもっと真剣に考えてみてほしい

のかもしれない。それはたんに現状に安居することではなく、さながら「恋」のように、なにかに否応なく手を引かれて自分の輪郭が変化していく契機なのではないでしょうか。(堀)

●惜しくも昨 autumn に亡くなったサリール・マクフェイグは、宗教言語の本質的隠喩性に対する深い神学的洞察から出発し、この社会に牢固として根を張る父権制的構造や、飽くなき消費と成長を追求する資本主義、そして現代世界が抱える核戦争や生態学的危機に対する鋭い問題意識に立って、キリスト教とその神学の大胆な再解釈を行ってきた重要な神学者です。しかし残念なことに著書の翻訳は一冊もありません。小社は二〇年近く前から『神のモデル』『スーパード、ナチュラル・クリスチャンズ』『豊かないのち』などの企画を試みてきましたが、種々の事情で実現できませんでした。それが昨年の春、ご自身の独自の関心からマクフェイグの遺著を訳し遂げた山下章子さんとの出会いに導かれ、それからあれよという間の一年半後、出版の運びとなりました。最後の書物から紹介が始まるというのもマクフェイグ理解にとつて善き成り行きだったのかもしれない。(小林)

福音と世界

2020年
12

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・パンデミックと生存格差

パンデミックと憲法 —— 齊藤小百合

パンデミックにおけるベシックインカム要求 —— 堅田香緒里

コロナ禍の解釈枠組——脅かされる生をめぐるフェミニズム・クイア理論からの試論 —— 羽生有希

セックスワーク否定の裏にあるもの —— 要友紀子

コロナ禍から考える —— 要友紀子

ステイ・ホームレス? —— コロナ禍における路上生活者と生存格差 —— 木村正人

「小説」じつと顔を覗く —— 金村詩恩

【注目の連載】

- ◆ いまを生きるみこことば 9 金迅野
- ◆ *Small Little Prayer* 開かれる世界 9 栗田隆子
- ◆ 新約釈義 第三メモテ書 9 辻 学
- ◆ くまさんのシネマめぐり 12 好井裕明
- ◆ 教父学入門 16 土井健司
- ◆ バビロンの路上で 21 マニエル・ヤン
- ◆ 遺跡が語る聖書の世界 24 (最終回) 長谷川修一
- ◆ 福音書記者たちの饗宴 24 (最終回) 松本あずさ
- ◆ 私はロックが分からない 24 (最終回) 山口政隆
- ◆ レヴィナスの時間論 68 内田樹